

見えているはずなのに、 見えていない？

交通安全と有効視野計測システムの関連研究

交通安全未来創造ラボ
研究通信 #7より

有効視野とは？

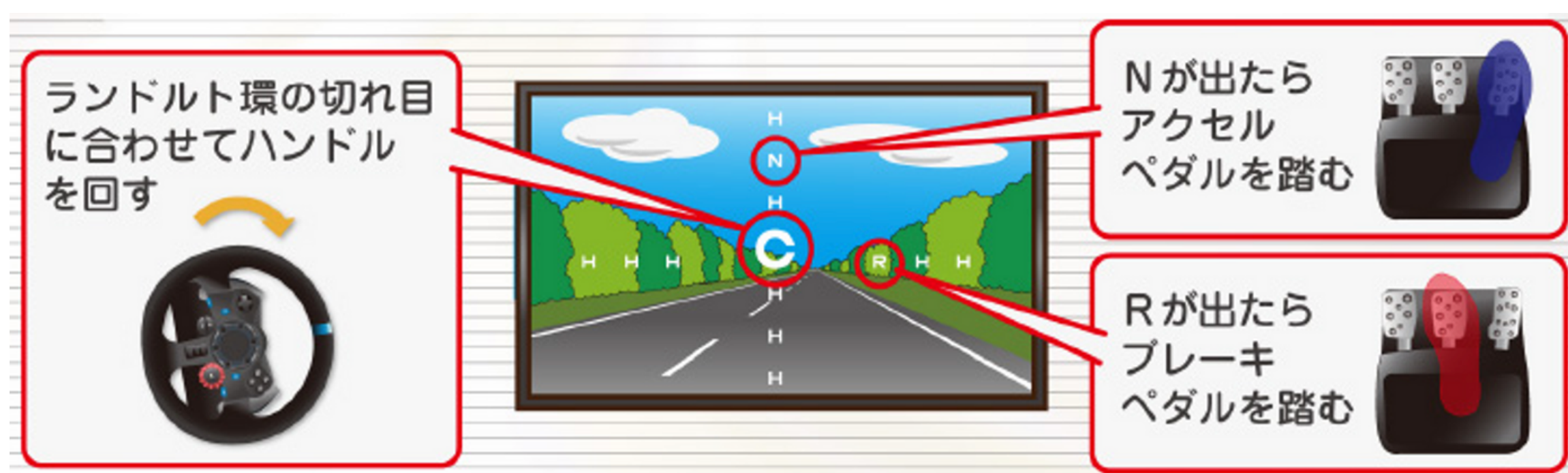
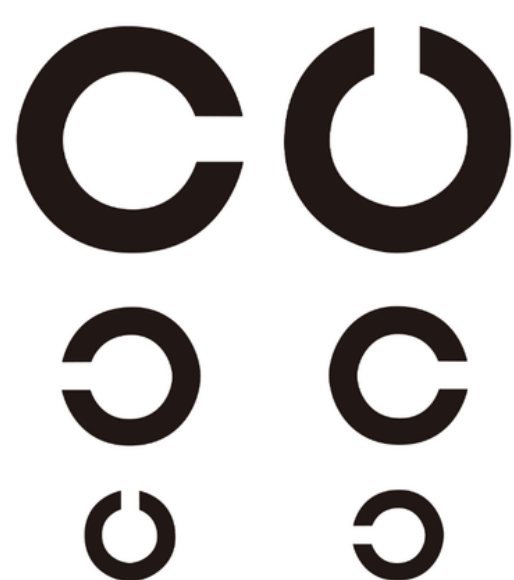
有効視野とは、中心を見ながら同時に情報処理を行える領域です。一般的な視野よりも範囲は狭く、この範囲外にある危険を見落としてしまう可能性があるために、交通事故との関連が高いと言われています。



有効視野計測システムの開発

交通安全未来創造ラボでは北里大学が中心となり、日産自動車株式会社の監修と株式会社PRIDISTの協力のもと、有効視野計測システムを開発しました。

動画、視線探索、手足と眼の共同運動等を通して注意を効果的に分散し、実際の運転シーンに近い環境で有効視野計測を可能にしました。



見えているはずなのに、 見えていない？

交通安全と有効視野計測システムの関連研究

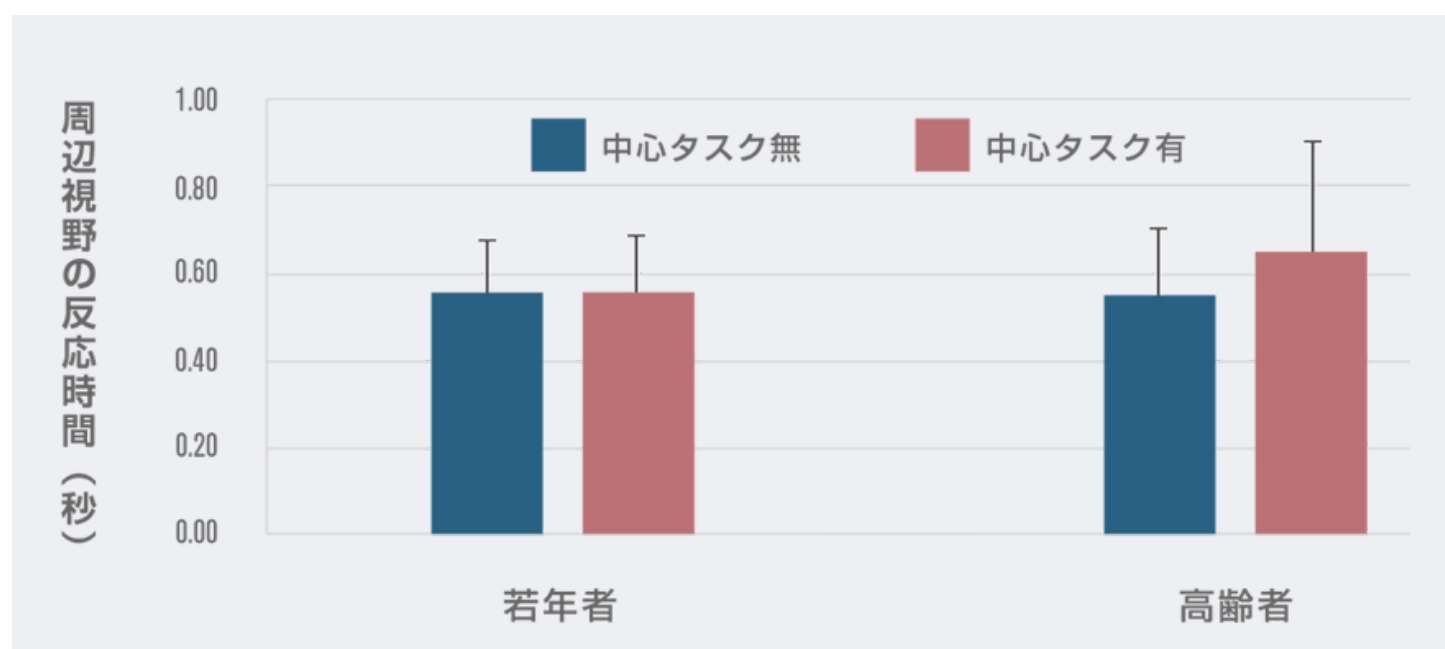
交通安全未来創造ラボ
研究通信 #7より

有効視野計測システムを用いた実験

被験者に画像中央に集中してもらい、① 画面にあわせたボタン操作やブレーキ操作の単純なタスクと、② ハンドル・アクセル操作を含む複雑なタスクをしてもらい、危険に対する反応時間や停止距離を計測します。

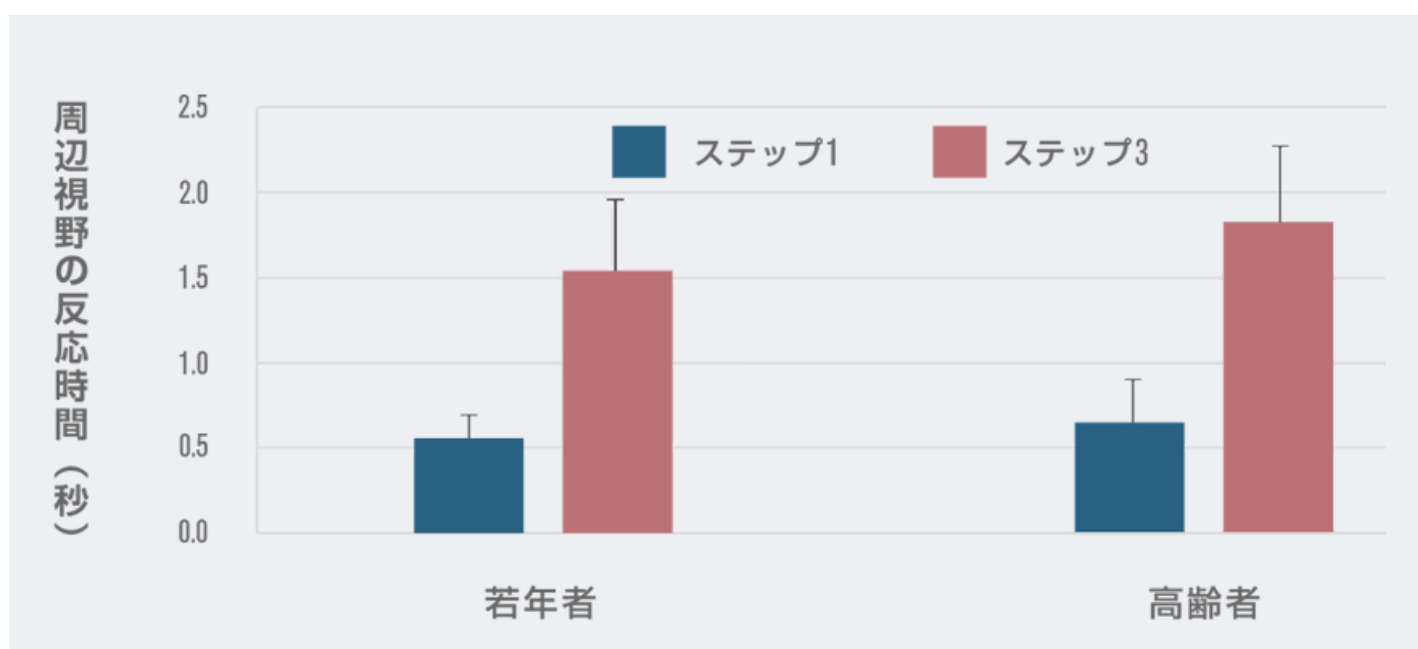
結果①

単純なタスクでも、中心に集中していると高齢者の反応時間は遅くなることがわかりました。



結果②

複雑なタスクでは、若年者も高齢者も反応速度が遅くなり、その程度は高齢者のほうが顕著になることがわかりました。



4月20 時台 雨 横断歩道での事故



事故事例（協力：相模原市）

4月22 時台 晴 横断歩道外横断の事故

ポイント



注意が何かに向いていると周りが見えなくなり、反応速度は遅れます。視界に入ることと「脳が認識する」ことは違うのです。

道路では、「思ったよりも見えていないし、見られていない」という意識が大切です

交通安全未来創造ラボ

レポート制作：川守田 拓志 特別研究員

（北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻 准教授）

NISSAN
MOTOR CORPORATION